

## 10 侵入調査

### (1) ミバエ類

#### ① トランプ調査

##### ア 調査方法

令和6年3月から11月にかけて都内のナシ、ブドウおよびトマト生産地にスタイナー型トランプを常時設置し、原則として月1回各害虫の捕獲の有無を確認した。誘引剤はミカンコミバエ種群・ウリミバエ・クインスランドミバエにユーゲルアD8、チチュウカイミバエにメドフライコールを用いた。誘引剤は月に1回新しい物に交換した。

##### イ トランプ設置場所

地 域	調査地点
多摩地域	東村山市、稻城市、八王子市

##### ウ 調査結果

調査期間中、いずれのトランプにおいてもミカンコミバエ種群、ウリミバエ、クインスランドミバエ、チチュウカイミバエは捕獲されなかった。

#### ② 南鳥島調査

##### ア 調査方法

令和6年11月14~15日にミカンコミバエ・ウリミバエ用トランプおよびチチュウカイミバエ用トランプをそれぞれ5箇所設置し、令和6年12月18~19日に回収して各害虫の捕獲の有無を確認した。誘引剤はミカンコミバエ・ウリミバエにユーゲルアD8、チチュウカイミバエにメドフライコールを用いた。

##### イ 調査結果

調査期間中、いずれのトランプにおいてもミカンコミバエ種群、ウリミバエ、チチュウカイミバエは捕獲されなかった。

### (2) トマトキバガ

#### ① 調査方法

令和6年3月から令和7年3月にかけて都内のトマト生産地5地点において、トマト定植期から栽培終了1カ月後までジャクソン型トランプを常時設置し、原則として月2回捕獲の有無を確認した。性フェロモン剤は信越化学工業(株)製トマトキバガ用SEルアーを用いた。性フェロモン剤は月に1回新しい物に交換した。

#### ② 調査場所

地 域	調査地点
多摩地域	府中市、八王子市、町田市、瑞穂町、日の出町

#### ③ 調査結果

令和6年9月30日に本虫のトランプへの誘殺が都内で初めて確認され、その後も継続的に捕獲された。周辺圃場での本虫による被害は確認されなかった。

### (3) ウメ輪紋ウイルス（プラムポックスウイルス）

#### ① 調査方法

令和6年7月から8月に都内のウメ生産地4地点において、目視による感染樹の調査および無作為に選定した5樹についてイムノクロマト法による検定を実施した。

#### ② 調査場所

地 域	調査地点
区 部	練馬区
多摩地域	小平市、立川市、東村山市

#### ③ 調査結果

いずれの地域においても、感染を疑われる症状は確認されず、検体から本ウイルスは検出されなかった。

### (3) トマトのウイルス4種（PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDV）およびウイロイド4種（CLVd、PCFVd、TCDVd、TASVd）\*

#### ① 調査方法

令和6年3月から令和7年3月にかけて都内のトマト生産地5地点において、栽培期間中に原則として月1回の目視調査を行った。

#### ② 調査場所

地 域	調査地点
多摩地域	府中市、八王子市、町田市、瑞穂町、日の出町

#### ③ 調査結果

いずれの地域においても、感染を疑われる症状は確認されなかった。

\*PepMV : Pepino mosaic virus、ToBRFV : Tomato brown rugose fruit virus、ToMMV : Tomato mottle mosaic virus、ToLCNDV : Tomato leaf curl New Delhi virus、CLVd : Columnea latent viroid、PCFVd : Pepper chat fruit viroid、TCDVd : Tomato chlorotic dwarf viroid、TASVd : Tomato apical stunt viroid